

ニュースレター from China (2007年3月23日)

1. 中国は“循環経済”実現の為に初めての法律を起案している。(2007年3月21日)

中国は、再生可能な発展戦略の法的な枠組みとなる、所謂、循環経済を創る初めての法律を起案していると、中国の環境関連の最高指導者が最近発表した。

人民会議の環境資源保護委員会の議長である、モオ・ルバイは、起案中の法律は資源効率の引き上げを狙っているが、8月には提案され年末には法制化されると述べた。

法律の目的は、中国が高度成長を続けられるように、幅広い分野の環境への配慮の呼びかけである。

本案は、エネルギー消費の引き下げ、高効率、汚染物質の発生抑制、そして3Rである、削減、再使用、リサイクルにのった廃棄物の発生最小化を求めている。

モオに依れば、本案は資源の使用削減とリサイクルを、可能な所から始める為の基礎的な管理必要事項を含んでいるとのことで、又{本法律の実行性を上げる為に、詳細な義務化の取り決めも盛り込まれている。}と述べている。

例えば、製品の梱包資材の回収とリサイクリングを産業界に義務付ける項目もある。

政府機関を含む関係経済部門には、水とエネルギーの節約、排水、固形廃棄物、廃熱の再利用、廃棄自動車、廃棄船舶、工作電気機械製品、コンピューター、その他の電気関係廃棄物等の大型廃棄物にはリサイクリングを求めている。

本案には、税務面の恩典付きの投資、循環経済を推進する、企業や機関からの優先調達などのような、循環経済を推進する為の助成策も含まれている。

又推進しない者への罰則もある。

モオは、循環経済法案を起案するに当たり、中国は、廃棄物のリサイクリングと循環経済社会実現に豊富な実績を持つ、工業先進国特にドイツと日本の経験から学んだが、これらのモデルを、中国の実情に合うように調整しなければならないと述べている。

しかし、本案に疑問を持つ意見もある。

匿名を希望するある環境専門家は、本案は中央政府の循環可能発展戦略の象徴に過ぎないとし、{2003年に施行されたクリーン・プロダクション推進法に比べ、本案は新味は無く、新法の必要性も無い}と論評している。

又{本案には、生産者に包装資材を回収しリサイクリングを依頼するような、中国では実現の難しい項目が多く、循環経済のルールに違反する者への明確で厳しい罰則措置も含んでいない}と述べている。

2. 外国からのゴミで疲れた村(チャイナ・デイリー誌、2007年1月18日)

エマ・マエスク号がヨーロッパへ出港した時は、中国製のクリスマスギフトを積んでいた

が、帰港した時は余り嬉しくない20万トン近くの外国で発生したゴミを積んでいた。ゴミの大部分はFoshan市のNanhai地区のLianjiao村に廃棄され、村の行政当局はゴミを引き受けた企業に処理するよう交渉する以外に方法がなかった。

“我々は誰が、このゴミを輸入したか、未だ調査中”と、Nanhai地区環境保護局の局次長のHuang Songhuaは言っている。

Lianjiao村は、既に内外からの約20万トンの廃棄プラスチックと約50万トンの廃棄紙、廃棄ダンボールで埋まっている。

空気と水の質は、ここに立地する400以上のゴミリサイクル、処理会社から流れ出た汚染物質の所為で低下している。

{これらの会社の90%は許可無し営業で、ゴミを分別無しで燃やす不適切な処理をおこなっている}とHuangは言っている。

そして、被害が甚大である。

{土地と水は余りに汚染しているので、再生するには100年以上を必要とする}と又{我々の廃棄物処理ですら大きな問題なのに、どうして外国産のゴミを処理できるのか}とTongji大学の固形廃棄物研究所のHe Pinjing所長は述べている。

状況の悪化を防ぐ為に、Nanhai当局はLianjiao村と隣接の6つの村の全てのゴミリサイクル、処理業者に1月18日前に業務を停止する命令を出した。

CCTVのレポートに依れば、中央政府は地方の警察を消防と協力して、Nanhai地区に入る全ての場所に、廃棄プラスチックを運ぶ車両の検問所を設置したとのことである。

地区管理委員会副主席のFeng YonkangはNanhai地区の廃棄プラスチックのリサイクルリングの仕事は終わることになると言っている。

禁止には種々の方策が取られている。

{1月18日以降も操業している工場は閉鎖される。許可なしが無資格の操業は直ちに禁止される。又Lianjiao村に廃棄されたゴミは全て、環境面の配慮がなされた発電所で発電の為に、燃焼される。}とのことである。

ゴミ処理工場の煙突から出る黒煙に咽び、汚染で黒ずんだ河川に囲まれて、Lianjiao村は過去20年間、年間20万トン以上のゴミ処理を続けてきた。

ゴミの一日当たり取り扱量は750トン近くで、Nanhai地区の廃棄プラスチックリサイクル産業の主力になっている。

3. 下水道処理システムの拡張(上海、2007年1月24日)

今年末までに、上海の都市部には下水道処理システムが設けられる。

1月23日、上海下水事業の第3期のパイプライン敷設工事が完了した。

そして計画より、一年早く、全工事が年末までに終了する予定である。

第3期事業は、下水道のパイプラインシステム、第2期 Zhuyuan 下水処理場、下水道集荷システム、その他補助システムからなっているが、2003年12月に始まった。

第3期事業は約170平方キロメートルをカバーし、約240万人の人口を対象とし、下水の処理量は、一日当たり、約100万トンである。

第3期事業の建設工事で一番の難工事は長さが25キロメートル、直径が2.7メートルの巨大なパイプラインの敷設で、Huangpu 河の水面下25メートルの工事もあった。

工事ではガスの発生が大きな問題で、時には濃度が11.2%になる時もあった。

この問題解決の為に、業者は換気設備を増やし、ガス濃度をモニターする技術者を採用し、安全基準を超えた場合には、労働者には即時退去の情報が出された。

以上